

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

分担研究報告書

- 1) 被災地域の相談支援センターの立ち上げと地域緩和ケアネットワークの構築に関する研究
- 2) ICTにより情報共有システムを用いた地域連携モデルの実施可能性の検討

研究分担者	木下 寛也	国立がん研究センター東病院緩和医療科科長
研究協力者	寺田 尚弘	釜石ファミリークリニック院長
	小田島史恵	釜石市健康推進課地域医療連携推進室
	小原 眞	県立釜石病院 外科

研究要旨

本研究の目的は、1) 東日本大震災により多大な被害を生じた岩手県釜石二次医療圏（釜石市、大槌町）において、がん緩和医療の地域ネットワークを構築することである。そのための支援として、本年度も定期的に釜石市を訪問し、県立釜石病院緩和ケア病床のカンファレンスに参加し助言、緩和ケア研修会、緩和ケアの普及・啓発を目的とした市民公開講座を2度開催した。また2) 在宅緩和ケア推進のツールとして、ICTにより情報共有システムを用いた地域連携モデルの実施可能性の検討に関する研究を行い、60名の患者登録を終了し、利用した医師を対象にフォーカスグループインタビューを行い内容の分析を行った。

1) に関しては、2015年8月26日に県立釜石病院が地域がん診療連携拠点病院の指定を受けることが出来た。2) に関しては実施可能性と、様々な利点が明らかになった。

A . 研究目的

2011年3月11日に発生した東日本大震災により多大な被害を生じた岩手県釜石二次医療圏（釜石市、大槌町）において、我々は2012年2月より県立釜石病院を中心に、相談支援センターの立ち上げと地域緩和ケアネットワークの構築のための支援を開始した。当初の目的の1つは、岩手県で唯一地域がん診療連携拠点病院がない、釜石二次医療圏において、県立釜石病院を地域がん診療連携拠点病院とすることである。昨年度は地域がん診療連携拠点病院の新規指定が止まっていたため、申請には至らなかった。今年度も継続して、県立釜石病院の緩和ケア機能の充実と地域住民に対する緩和ケアの普及・啓発を目的とする

とともに、地域がん診療連携拠点病院の指定の開始に備えた。

第2に被災地にも応用可能な、在宅医療の推進の課題の1つである医療・福祉従事者間の医療情報共有ツールとしてのICT（Information and Communication Technology）の実施可能性と利点、問題点を明らかにすることを目的とする。

B . 研究方法

1) 被災地域の相談支援センターの立ち上げと地域緩和ケアネットワークの構築に関する研究

2015年度の県立釜石病院における支援活

動と、釜石市において2度開催した市民公開講座についての記述を行う。

2) ICTによる情報共有システムを用いた地域連携モデルの実施可能性の検討

国立がん研究センター東病院緩和医療科から、地域の訪問診療所に在宅緩和ケア目的で紹介された患者を対象に、ICTを利用して情報共有を行うことの実施可能性に関する研究を行う。さらに、利用した医療者のフォーカスグループインタビューを行い、内容分析を行う。

(倫理面への配慮)

2)の研究に関しては、研究内で行われる患者への介入は、通常臨床で行われている範囲内のものであり、本研究に参加することで特別なリスクや不利益を生じない。しかし、患者の個人情報クラウド型ICTで扱うため、説明同意文書を用いて説明、文書により同意を取得した。

本研究において、研究対象者の個人情報は、厚生労働省・総務省が定めた医療情報外部保管ガイドライン(厚生労働省が定めた「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第4.1版」)ならびに厚生労働省・総務省が定めた「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン第1.1版」、「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドラインに基づくSLA参考例」)に準拠したITクラウド型の情報共有システム上で管理をし、同時に同ガイドラインに準拠した安全対策(管理運用規定)を定めた。

C. 研究結果

1)に関しては、

県立釜石病院緩和ケア病床で毎週開催されるカンファレンスに月に2回参加し、助言を行った。

県立釜石病院緩和ケア研修会を2015年11月8日、9日に開催した。受講者は医師3名、歯科医師1名、看護師4名、薬剤師1名であった。緩和ケア研修会の一部の講義主体のモジュールは、地域の多職種が受講出来るよう公開講座として開放した。

緩和ケアの普及・啓発活動に関しては、釜

石市(在宅医療連携拠点チームかまいし)と協働し、2015年11月5日に市民公開講座を開催し、44名の市民が参加した。また、2016年2月15日にはがん診療連携拠点病院の指定要件である市民公開講座を県立釜石病院で開催し、65名の市民が参加した。

2015年8月26日に県立釜石病院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受けた。

2)に関しては、

60名の患者登録を行った。またICTによる医療情報共有システムに関して病院医師4名と訪問診療医師3名によるフォーカスグループインタビューを行った。内容を分析したところ、6個のカテゴリーに分類された。カテゴリーとしては、1)訪問診療医師にとっての利点、2)病院医師にとっての利点、3)訪問診療医師、病院医師の両者にとっての利点、4)患者にとっての利点、5)課題、6)その他であった。

1)訪問診療医師にとっての利点

- ・ 病院医師が選択したCT等の画像を早く見ることが出来るため病状の把握がしやすい
- ・ 電話と比較して気軽に病院医師に相談出来る
- ・ 診療情報提供書より情報量が多い
- ・ 検査を簡単に依頼出来る
- ・ 予定入院の依頼を簡単に行える

2)病院医師にとっての利点

- ・ 在宅で行われていることを知ることが出来る
- ・ 病院にいないときにも訪問診療医師と情報を共有出来る
- ・ 気を付けてもらいたい症状に応じた画像を選択して訪問診療医に提供出来る
- ・ 診療情報提供書に記載を忘れた内容を適宜追記できる

3)訪問診療医師、病院医師の両者にとっての利点

- ・ 情報のキャッチボールが可能
- ・ 連携がより密になった

4)患者にとっての利点

- ・ 連携を患者に可視化できる
- ・ 患者も安心

5)課題

- ・ 何を共有するかルール作りが必要

6) その他

- ・ 顔の見える関係があっではじめて ICT が生きてくる
- ・ 顔の見える関係がなくても ICT なら気軽に相談出来る

D. 考察

1) 岩手県釜石二次医療圏の緩和ケアネットワークの構築に資する研修会、市民公開講座を釜石市および県立釜石病院と協力して行った。当初の目標であった県立釜石病院の地域がん診療連携拠点病院申請を行うことが出来た。

拠点病院の要件の維持には、今後も継続的な支援が必要と考えられた。

2) ICT による訪問診療医師、病院医師間の情報共有システムには、訪問診療医師、病院医師、両者、患者に利点があり、実施可能性も検証された。

E. 結論

1) 岩手県釜石二次医療圏において、県立釜石病院緩和ケア病床カンファレンスに助言者として参加した。緩和ケア研修会を開催した。地域住民に対する緩和ケア普及・啓発を目的とした市民公開講座を開催した。2015年8月26日に県立釜石病院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受けた。

2) ICT により情報共有システムを用いた地域連携モデルの実施可能性と様々な利点が明らかになった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Kinoshita H, Maeda I, Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Shirahige Y, Takebayashi T, Yamaguchi T, Igarashi A, Eguchi K. Place of death and the differences in patient quality of death and dying and caregiver

burden. J Clin Oncol. 33(4):357-63, 2015

2. Morita T, Sato K, Miyashita M, Yamagishi A, Kizawa Y, Shima Y, Kinoshita H, Suzuki S, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Does a regional comprehensive palliative care program improve pain in outpatient cancer patients? Support Care Cancer. 22(9):2445-55, 2014
3. Yamagishi A, Sato K, Miyashita M, Shima Y, Kizawa Y, Umeda M, Kinoshita H, Shirahige Y, Akiyama M, Yamaguchi T, Morita T. Changes in quality of care and quality of life of outpatients with advanced cancer after a regional palliative care intervention program. J Pain Symptom Manage. 48(4):602-10, 2014
4. Imura C, Morita T, Kato M, Akizuki N, Kinoshita H, Shirahige Y, Suzuki S, Takebayashi T, Yoshihara R, Eguchi K. How and why did a regional palliative care program lead to changes in a region? A qualitative analysis of the Japan OPTIM study. J Pain Symptom Manage. 47(5):849-59, 2014
5. Sasahara T, Watakabe A, Aruga E, Fujimoto K, Higashi K, Hisahara K, Hori N, Ikenaga M, Izawa T, Kanai Y, Kinoshita H, Kobayakawa M, Kobayashi K, Kohara H, Namba M, Nozaki-Taguchi N, Osaka I, Saito M, Sekine R, Shinjo T, Suga A, Tokuno Y, Yamamoto R, Yomiya K, Morita T. Assessment of reasons for referral and activities of hospital palliative care teams using a standard format: a multicenter 1000 case description. J Pain Symptom Manage. 47(3):579-587, 2014
6. 木下寛也, 2014年度診療報酬改定と医

療介護総合確保推進法に伴う、緩和ケア病棟の位置づけと今後。緩和ケア
24(5):365-369, 2014.

7. 木下寛也, せん妄・興奮・身の置き所のなさへの対応。緩和ケア
24(4):283-290, 2014.

2. 学会発表

1. 菅野喜久子, 木下寛也, 森田達也, 宮下光令, 他: 東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん患者の緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究。第19回日本緩和医療学会学術大会。
2014.6, 神戸

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許の取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記すべきことなし

釜石市健康づくりの集い(午後の部)

平成26年度 市民公開講座

「**食べること** **生きること**」
健康を支える多職種連携

対象

地域包括ケアに関わる多職種、一般

内容

●13:20…開会 主催者あいさつ

●13:30…「釜石市の在宅医療と多職種連携」

講師 寺田 尚弘氏
(在宅医療連携拠点チームかまいしアドバイザー 釜石ファミリークリニック 院長)

座長 木下 寛也氏
(国立がん研究センター東病院 緩和医療科科長)

●14:00…「**食べること** **生きること** ～命を支える口腔ケア～」

講師 五島 朋幸氏
(ふれあい歯科ごとう 院長)

座長 木下 寛也氏
(国立がん研究センター東病院 緩和医療科科長)

●15:30…閉会



五島 朋幸

広島県安芸郡府中町生まれ
日本歯科大学歯学部卒
ふれあい歯科ごとう代表
日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科臨床准教授
新宿食支援研究会代表
在宅ケアを支える若手歯科医師の会発起人 ほか
掲載雑誌、執筆等
「口腔ケア〇と×」(中央法規)
「昭和40年男」(クレタ/ブリッソング)連載中!
「愛は自転車に乗って 繪巻者とスルメと情熱と」(一橋出版)

参加無料

事前申込
不要

日時

平成26年**11**月**15**日
12:50開場 13:20開演

会場

イオンタウン釜石2F
イオンタウンホール

主催 国立がん研究センター東病院、釜石市(在宅医療連携拠点チームかまいし)

共催 釜石医師会、釜石歯科医師会、岩手県釜石保健所、大槌町

(イオンタウン釜石)



会場はこちら!

問い合わせ先 在宅医療連携拠点チームかまいし 0193-55-4536

平成26年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
「被災地に展開可能ながん在宅緩和医療システムの構築に関する研究」班

平成26年度県立釜石病院市民公開講座

がんになつても安心して
暮らせるまちづくり



日時 平成27年 **2/15** (日)

場所 岩手県立釜石病院大会議室(2F)

座長 県立釜石病院 第一外科長 小原 眞

SESSION 13:00 ▶ 13:25

1 「地域がん診療連携拠点病院の指定を受けて」

県立釜石病院 副院長 遠野 千尋

SESSION 13:25 ▶ 13:50

2 「県立釜石病院の緩和ケアについて」

県立釜石病院
緩和ケア認定看護師 西 明子

SESSION 14:00 ▶ 15:00

3 「がんと診断された時の患者・家族の心構え」

国立がん研究センター東病院
緩和医療科 科長 木下 寛也

主催

岩手県立釜石病院・平成26年度厚生労働科学研究費補助金／地域医療基盤開発推進研究事業
被災地に展開可能ながん在宅緩和医療システムの構築に関する研究班